

刊行に寄せて

東京大学 CoREF は、大小さまざまな市町教育委員会及び学校等と「新しい学びプロジェクト」、埼玉県教育委員会と「未来を拓く『学び』プロジェクト」という協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業を行っている。平成 22 年度から始まったこれらの研究連携は今年度で 9 年目となった。

いずれの事業でも私たちは現場の先生方と連携して、「人はいかに学ぶものか」について今研究分野でわかってきていることを基盤に、教室で行われている授業の質を上げ、子どもたちが自分たちで考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出していける新しい学びのゴールを追究してきた。私たちは、こうした新しい学びのゴールに向けて、私たち研究者、教員、そして様々な分野の社会人専門家のコミュニティが緩やかに重なりながら、それぞれの専門性を活かし、教室の事実学びながら継続的に授業の質を上げるためのネットワークを構築することの重要性を一連の事業を通じて痛感してきた。本報告書の作成並びにその基本となった事業においては、「新しい学びプロジェクト研究協議会」参加の 17 都道府県 26 団体、埼玉県をはじめ、山形県、長野県、静岡県、高知県、鳥取県、島根県、大分県など連携の県教育委員会・センター等、学校のみならず、日本産学フォーラム、NPO 法人日立理科クラブ、日本技術士会統括本部登録団体「わくわく理科教育の会」、日本アイ・ビー・エム株式会社、学校法人河合塾をはじめとする社会人専門家のみなさまに多大なご支援、ご協力をいただいた。この場を借りて感謝を表したい。

本報告書は、第 1 部「平成 30 年度の活動報告」、第 2 部「協調学習授業デザインハンドブック（第 3 版）」の 2 部で構成される。

今年度は特に子どもの学びの過程をどのように見とるか、それを次の授業デザインにどう活かすか、主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究に焦点化した取組を進めてきた。これは別の言い方をすれば次の学びの質を支える評価の充実とも言える。「はじめに」では、そうした新しい評価の基本的な考え方について整理する。

続く第 1 部第 1 章「連携事業の展開」では CoREF と自治体との連携による授業づくり実践研究の今年度の展開について報告する。第 1 節では、CoREF と自治体及び学校等との研究連携の基本的な枠組みを紹介する。第 2 節、第 3 節では中心的な研究連携事業である「新しい学びプロジェクト」、「未来を拓く『学び』プロジェクト」について、今年度の活動報告を行う。第 4 節では、研究連携を支える核となる先生方の学びの場である「本郷学習科学セミナー」について報告する。第 5 節では、研究連携の今後の発展に向けて、CoREF が産官学と連携しながら試みている事業のいくつかを紹介する。第 6 節では、今年度 CoREF が講師を務めた関連研修一覧を示す。

第 1 部第 2 章「授業研究のサイクルをどうやってまわしていくか」では、主体的・対話的で深い学びの質を支えるための授業研究の視点やツールについて報告する。子どもの

学びを具体的に想定しながら授業をデザインし、学びの事実を基に想定を見直していくような仮説検証型の授業研究を実現するために、今年度は具体的に見とりの観点の設定や授業研究会における事前事後の研究会の持ち方について学校現場の先生方と連携して取り組んできた。第1節でその大枠を示し、続く第2節、第3節で具体例を紹介する。

第1部第3章「授業研究のサイクルを支えるICTシステムの開発」では、白水が代表を務める日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究S「評価の刷新—学習科学による授業モニタリングシステムの開発と社会実装—」（平成29～33年度）の取組の現状について報告する。授業研究の質を高め、明日の学びの質を高めるために、ICTの力を借りてできるとよさそうなことは何か、現実的にどんなシステムを開発、実装できると今やっていることの質が上がるか。研究の大枠とこれまでの進捗（第1節）及び現在開発中の授業づくりのやり取りを蓄積共有するための「学譜」システム（第2節）、子どもの学びのプロセスを短期的、中長期的に記録、分析するための「学瞰」システム（第3節）についてそれぞれ報告する。

第2部「協調学習 授業デザインハンドブック（第3版）」では、協調学習の授業づくりについて現時点での実践研究から見えてきたことを実践者向けにまとめている。

第2部第1章「授業実践事例編」では、「知識構成型ジグソー法」の実践について大まかなイメージをもっていただくことを目的に、小中高さまざまな教科を題材に、「知識構成型ジグソー法」を用いた授業の事例を簡単に紹介している（第1節）。あわせて、授業づくりについて掘り下げて考えていただく素材として、授業者の先生方の生の声（第1節）、そして教科ごとの現時点の「授業デザイン原則」としてまとめられたものを収録している（第2節）。

第2部第2章「授業研究導入編」では、協調学習を引き起こす授業づくり実践研究において大事にしたい基本的な視点（第1節）とそのための具体的な授業研究の持ち方について解説している。子ども達の学びの過程をどのように想定しながら授業をデザインするか（第2節）、教室で起こっている学びをどう見とり、どう次の授業づくりに活かすか（第3節）。手法の先に私たちが一番共有したいのがこの授業研究のあり方である。

第2部第3章「データ編」は、9年間の研究連携の成果を集めたデータ集である。データは実際にご活用いただける形で付属のDVDに収録されている。DVDには、「開発教材」として、小中学校639、高等学校1,628の教材について、授業案や教材、実践者の振り返りコメント、児童生徒の記述例（一部教材のみ）が収められている。また、「実践動画」として、これらの教材の一部を用いた授業風景の動画も収録している。

あわせてDVDには、「参考資料」として私たちが研修等で行っているスライドを用いたレクチャーや過去の年次報告書、ハンドブックの電子データ等も収録している。この中には、「知識構成型ジグソー法」やその背景となる学習理論についてのより基本的な解説も含まれる。目的に応じてご活用いただきたい。

東京大学 CoREF 教授 白水 始